

諸人のここに学びて(17) 一校長室から見える風景―

地域に育てていただいていること、必ず自分に返って来ること

昨日、とある地域の方からお手紙をいただきました。「何だろう?」と封を開け、読み始めました。丁重な文章にしたためられたことは次のようなことでした。

地域のコミュニティの活動に豊岡高校の生徒が中学生の時から参加してくれている。主な活動は地元の野菜などを販売する朝市であるが、コロナ禍で手作りマスクを販売することがあり、その頃から今まで続けてもらっている。高齢者が多いコミュニティのため、その生徒の関りにスタッフ全員がとてもありがたく思ってきた。朝市以外の活動にも参加してくれて、後輩が関わってくれるきっかけも作ってくれた。今年で高校を卒業され地元を離れることになるかと聞いている。その生徒のこれまでコミュニティの活動に報いたいと、校長先生に知っていただきたくお手紙を差し上げた。コミュニティとして表彰をしたいと考えている。

なんとうれしく、ありがたいお手紙でしょうか。生徒が地元の活動に長らく関わってきたことも素晴らしいことであり、それを地域の方が感謝をされ何かの形でお返ししたいとお手紙をくださったこと、私も生徒やコミュニティの方々に感謝の思いです。

それで思い出したことがあります。1学期に3年生と面談したとき、全員に「高校生活で力を入れたこと、頑張ったこと」をたずねました。多くの生徒が「部活動」や「学習」、「探究活動」をあげてくれましたが、「地域の活動」と答えてくれた生徒がいました。お手紙の生徒はその生徒でした。その生徒にとっても、思い入れのある活動であったのでしょう。コミュニティの方に深く信頼されているのは、実直で誠実な人柄ゆえでしょう。

「日ごろが大事」これも以前お伝えしたのですが、日々の過ごし方、ありようはいつか自分にかえってくるもの。必ず周りの人は見てくれている。そんなことを感じました。

お手紙をくださったコミュニティのみなさま、ありがとうございました。私もみなさまの思いに少しでもお返しできるよう生徒本人に感謝を伝えたいと思います。